

“うるく” 地域づくり

21世紀を担う健やかな青少年を育てることを目的に、小祿地域に関わりのある機関・団体が協力して豊かで明るく住みよい地域づくりをめざし、「うるく」地域づくり連絡会が平成8年に結成されました。

子どもたちが豊かな心を持ち、たくましく生きる力を身につける上で、学校、家庭と並んで身近な地域社会が重要な役割を果たしています。特に、自分が生まれ育った郷土で日常接する人々との関係を認識させたり、郷土の優れた文化、伝統に対する関心を高めさせることを通して、郷土への愛情、誇りをもたせ、また、地域社会における自分の立場を考えさせていくことは、非常に大切なことだと考えます。

子どもが豊かでたくましい心を持ち、すべての人々を愛するようになるためには、まず、身近な人々や郷土との触れ合いにおいて愛することの意義を知り、愛する行為を身につけていくことが基本となります。郷土を愛することは、つまり、子どもの人間性を培う基本であると言えます。

郷土の自然や文化、芸能、先人の苦勞や偉業に触れ親しんだり、地域の行事に参加したりすることによって、地域社会の一員としての所属感や連帯感も芽生えてくるものと考えます。

私たちの子どもの時代には、意図したことでなかったかもしれないけれど、そのような活動が展開されていました。標記の“うるく”としたのも、昔のこうした「良さ」を取り戻したいとの意味が含まれています。

地域に遊び場や自然がなくなったり、塾通いなどで子どもたちが地域に親しむ機会が少なくなっていく現状を考えると、今こそ、自分の郷土について認識を深め、郷土を大切にしようとする態度を育てる必要があると考えます。

私たち、小祿地域に住むすべての人々が手を取り合って、私たちの子どもたちのための、心豊かな「ふるさと」づくりへ向けて、努力したいものです。